

<臨床報告>

3年間継続した口腔ケアセミナーから得られた成果と課題

内田信之¹⁾, 外丸雅晴²⁾, 平形浩喜²⁾
 神邊雅良²⁾, 島村 修²⁾, 川越靖夫²⁾

要旨:【目的】群馬県吾妻地域で、2011年より年に1回「吾妻口腔ケアセミナー」を開催した。今回このセミナーを通じて私たちが得た成果、および課題について検証する。

【方法】吾妻郡歯科医師会の歯科医師および原町赤十字病院のNSTメンバーを中心に、吾妻地域の公的な施設を利用して2011年から2013年まで、毎年秋に「吾妻口腔ケアセミナー」を開催した。セミナーの内容は、3回とも講義と実習の2本立てとした。

【結果】3回目のセミナー時に、急性期病院、回復期病院、慢性期病院の代表者より、それぞれの施設の口腔ケアの現状について発表を行った。この結果、口腔ケアが医療・介護の分野で基本的手技であるという考えが、吾妻地域である程度浸透していることがわかった。一方参加人数は徐々に減少していた。

【考察および結論】3年間継続した「口腔ケアセミナー」から、私たち吾妻地区の医療・介護者は、口腔ケアの重要性を認識するとともに、基本的手技もある程度習得できた。さらにこのセミナーが地域の医療・介護者の連携に役立ったと感じられた。一方セミナーを企画する立場としては、多くの医療・介護者が興味を持って気軽に参加できるようなテーマの設定と内容の検討が、常に必要であると実感した。

内田信之, 外丸雅晴, 平形浩喜, 神邊雅良, 島村 修, 川越靖夫: 日本口腔ケア学会誌:11(1):89-94, 2016
 キーワード: 口腔ケアセミナー, 地域医療連携

緒言および目的

口腔ケアは、現在の医療・介護の分野では誰もが身につけるべき基本的な手技となりつつある。しかしながら、医師や看護師、介護士の多くは口腔に関する知識が不十分であり、口腔ケアの重要性を認識していても適切な処置ができないことがしばしばある^{1,2)}。群馬県吾妻郡は群馬県西北の山間部に位置し、人口減少や少子高齢化が年々進んでいる。その地域の中核病院である原町赤十字病院は、2005年にNST活動が開始されて以来群馬県歯科衛生士会と契約し、摂食・嚥下障害患者や周術期患者の口腔環境改善を目的にオーラルマネジメントを積極的に行ってきた³⁾。そして2011年春からは、地元の吾妻郡歯科医師会と連携し、悪性腫瘍の手術前や化学療法開始前に積極的に歯科受診を勧めるようになった^{4,5)}。さらに2011年秋からは、吾妻地区の医療・介護者を対象とした「吾妻口腔ケアセミナー」を開催するに至った。その後2012年、2013年に第2回、第3回の「吾妻口腔ケアセミナー」を開催した。今回この口腔ケアセミナーを振り返り、この3年間で私たちは何を手にしたか、そしてこのセミナーを通して見えてきた今後の課題について考察した。

方法

口腔ケアセミナーの対象は医療・介護に携わる者すべてとした。そしてその目的は、口腔ケアに関する基礎知識と技術を習得すること、および吾妻地区の地域医療連携の質的向上に寄与することのできる人材を育成することとした。セミナーの方法は、吾妻郡歯科医師会で作成したテキストを利用し、前半に外丸雅晴歯科医師を中心に口腔ケアの総論講義、後半に吾妻郡歯科医師会の歯科医師がインストラクターとなり口腔ケア実習を行うという形とした。それぞれのセミナー終了後にアンケート調査を行い、その後のセミナーの参考とした。特に3回目のセミナーでは、セミナー終了後に参加者の口腔ケアの質的向上の状況、そして日常の業務に生かされたかを確認するために、アンケート調査や直接面談による追跡調査を行った。

結果

第1回目は2011年秋に開催。初回ということもあり、内容は歯と口腔の解剖や生理学的特徴、口腔ケアの必要性などの口腔に関する基本的事項の講義、および口腔ケアに必要な物品の確認、疑似口腔乾燥の体験実習、口腔ケアアセスメントの実技や口腔ケアの基本手技の実習を行った(表1)。インストラクターである歯科医師を含め91名が参加した(表2)。職種は看護師が最も多く、その他は訪問介護員、介護福祉士、栄養士、医師などであった(図1)。終了後のアンケートの結果では、参加者の多くは口腔ケアの重要性を十分理解しているものの、手技に対する不安や、日常の多忙な業務の中で口腔ケアに十分な時間を費やすことができないなどの悩みがあることがわかった。プログラ

¹⁾ Nobuyuki UCHIDA

²⁾ Masaharu TOMARU

²⁾ Hiroki HIRAKATA

²⁾ Masayoshi KANBE

²⁾ Osamu SHIMAMURA

²⁾ Yasuo KAWAGOE

¹⁾ 原町赤十字病院外科

〒377-0882 群馬県吾妻郡東吾妻町大字原町 698

²⁾ 群馬県吾妻郡歯科医師会

〒377-0424 群馬県吾妻郡中之条町中之条町 858

受理 2014年11月10日

ムの内容については全体的に好意的な意見が多かった。特に実技の実習が好評であり、講義より実習を多くしてほしいという意見が多かった(表2)。

第2回目は、2012年秋に開催。第1回目のアンケート結果を踏まえて、口腔ケアアセスメント、口腔ケアの基本手技、口腔機能評価、口腔機能訓練の4つをメインテーマとし、実習主体のセミナーとした。具体的には、オブラートをを用いた要介護高齢者の口腔状態の疑似体験、保湿剤使用実習、黒ゴマをもちいた口腔ケア実習などを行った(表1)。また、参加者が所属施設で伝達講習できるように、テキストの整備、特別な器具、機材を必要としない実習などの配慮を行った。インストラクターである歯科医師を含め76名参加(表2)。職種は看護師が最も多く、その他前回と同様に多職種の医

療者が参加した(図1)。終了後のアンケートの結果では、第1回目と同様に好意的な意見が多かったものの、施設によって口腔ケアの関する取り組みに違いがあることも明らかになった。また他施設の口腔ケアの実施状況を知りたいという意見も多かった(表2)。

第3回目は2013年秋に開催。第1回口腔ケアセミナーを行う前では、吾妻地区内で口腔アセスメントや口腔ケアを積極的に実践している施設は原町赤十字病院のみであったが、セミナーを重ねるごとに口腔ケアに対する認識が高まり、多くの施設で様々な取り組みがなされてきていることが分かった。第1回目、2回目のアンケートで他施設の口腔ケアの実情を知りたいという意見があったこともあり、第3回セミナーでは最初に、吾妻地区の急性期病院である

表1 各回のセミナーの内容

	第1回セミナー	第2回セミナー	第3回セミナー
講義内容	歯と口腔の解剖・生理学的特徴 口腔ケアの必要性に関する科学的根拠 要介護高齢者の口腔状態について	口腔ケアの必要性 要介護高齢者における口腔ケア	急性期病院、回復期病院、慢性期病院での口腔ケアの実態報告 各種帳票(口腔ケアアセスメント、モニタリング、施設間連絡、歯科医院への診療依頼)の説明
実習内容	口腔ケアに必要な物品の確認 口腔ケア基本的手技の実習 疑似口腔乾燥の体験実習 口腔ケアアセスメントの実習	口腔ケアアセスメントの実習 口腔ケア手技の実習(黒ゴマ使用) 口腔機能評価の実習 口腔機能訓練の実習 オブラートをを用いた要介護高齢者の口腔状態の疑似体験 保湿剤使用実習	口腔ケア基本手順の実習 上記の各種帳票の記載実習

表2 各回のセミナー参加人数およびアンケート調査の結果

	第1回セミナー	第2回セミナー	第3回セミナー
セミナー参加者	91名	76名	71名
歯科医師参加者	16名	12名	13名
歯科医師を除く参加者	75名	64名	58名
アンケート回答者(回答率)	70名(93.3%)	53名(82.6%)	47名(81.0%)
参加理由(複数回答可)			
内容に関心あり	12名(17.1%)	26名(49.1%)	22名(46.8%)
工作上必要	44名(62.9%)	30名(56.6%)	18名(38.3%)
自分のスキルを高める	37名(52.9%)	35名(66.0%)	25名(53.2%)
内容はわかりやすかったか			
はい	63名(90.0%)	45名(84.9%)	44名(93.6%)
代表的な意見			
よかったという意見	インストラクターである歯科医師が多数いてよかった 今まで間違っていた口腔ケアをしていたことに気付いた	高齢者の口腔内の疑似体験ができてよかった 楽しみながら実習ができた	3施設の口腔ケアの現状を知ることができよかった 他職種とのグループワークがよかった
よくなかったという意見	きれいな歯での実習で実感がわかない 講義の部分が難しかった	オブラートを口腔内に貼るのが難しい 講義の部分が難しかった	いろいろな職種の人がいるので緊張した 専門的な話になると難しかった
今後の要望	実習時間を増やしてほしい 口腔内の汚れがひどい時のケア方法の実習	他施設の口腔ケアの取り組みを知りたい 開口困難な患者さんのケアの方法の実習	摂食・嚥下障害患者へのアプローチ方法を知りたい 医療者以外の方も参加できればよい

原町赤十字病院，回復期を主に担当している群馬リハビリテーション病院，慢性期患者を診ることの多い田島病院の代表者より，それぞれの施設での口腔ケアの現状について報告を行った(表3)．各施設ともに，口腔アセスメント方法，ケア方法などしっかり確立されており，それまで行われた口腔ケアセミナーが，少なからず良い結果をもたらしていることがわかった．しかしながら，各施設ともにそれぞれの悩みや問題点があることも明らかになった．セミナーの内容は，1回目，2回目同様，講義と実習の二本立てで行った．特に施設間連携や歯科医との連携を重視し，口腔アセスメントのモニタリングや歯科への依頼方法，およびこれらの帳票の記載実習などを行った(表1)．インストラクターである歯科医師を含め71名参加したものの，参加人数は徐々

に減少(表2)．職種は看護師がいつものように最も多く，介護福祉士や訪問介護員は減少した(図1)．終了後のアンケートの結果では，他施設の現状を知ることができてよかったなど好意的な意見が多かった一方，摂食・嚥下障害患者へのアプローチ方法に関するセミナーの要望，また医療者以外の方々にも参加できるようなセミナーの要望などもあった(表2)．なお，3回のセミナーで延べ238名が参加していたが，3回すべて参加した方は20名，2回参加した方は25名，1回のみ参加者は128名であり，実質の参加者は173名であった．3回すべて参加した職種の70%は，歯科医師および歯科衛生士であった．

第3回目のセミナーは，「公益財団法人フランスベッド・メディカルホームケア研究・助成財団」より平成25年度の

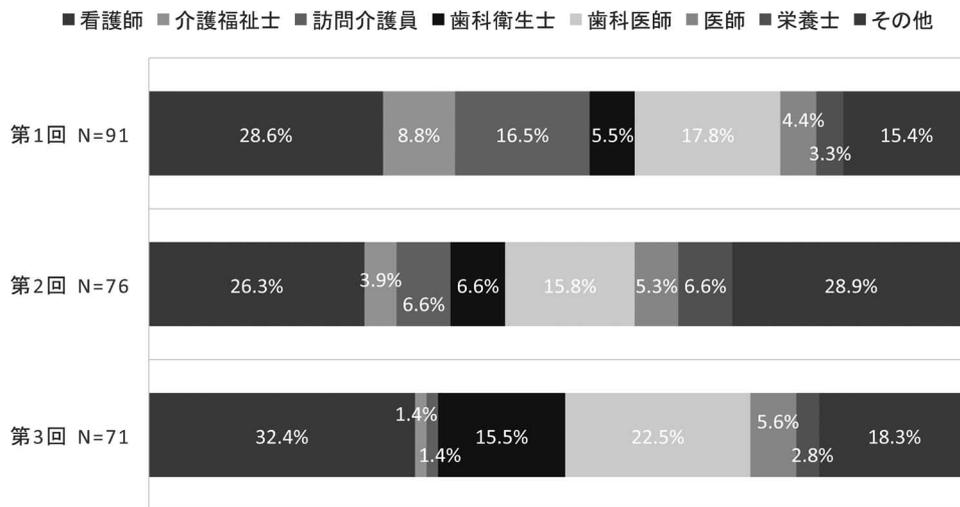


図1 各回のセミナーの参加職種の割合

表3 急性期病院，回復期病院，慢性期病院の口腔ケアの現状と問題点

	急性期病院	回復期病院	慢性病院
患者の口腔内の確認方法	日勤帯の看護師が、要介護者全員に行う 自立している患者には口腔内について質問し、適応と判断されれば行う	看護師、看護補助者、リハビリスタッフが、経口摂取患者には毎食後、非経口患者には午前、午後、就寝前に行う	看護師が、午前中の口腔ケア時に、ほぼ全員の患者(ほとんどが要介護者)に行う
口腔ケアの方法	看護師、看護助手が担当 1回5分程度。1日1~3回	看護師と言語聴覚士が担当 1回5~10分。1日3回	看護師が担当 1回5~10分。1日1~3回 週1回歯科医師回診あり
使用器材	自立していれば歯ブラシのみ 要介護者にはスポンジブラシ、保湿剤、洗口剤併用	主として歯ブラシ 非経口患者には口腔ケアガーゼ使用 スポンジブラシ、保湿剤も時に併用	歯ブラシ、スポンジブラシ、保湿剤、洗口剤 歯科医師の回診時は開口器、吸引器も使用
問題点や悩み	精神疾患患者や認知症患者の対応	口腔ケアの評価が困難 職員の口腔ケアの関心を維持することが困難 地域連携の確立	口を閉じない患者への対応 口腔カンジダ症の対応など

研究助成を得たうえで、セミナー終了後に参加者の口腔ケアの質的向上の状況、そして日常の業務に生かされたかを確認するために、アンケート調査や直接面談による追跡調査を行うことが計画されていた。セミナー時に18名の参加者からこの調査の了解が得られ、実際には14名から回答をいただいた(表4)。14名のほとんどは看護師であった。嚥下機能、嚥下障害に関する把握、歯や義歯に関する把握、口腔状態に関する把握、口腔清掃の自立度の把握、および口腔ケアの基本手技に関しては、概ね一人でできるという回答が多かった。この結果は、3年間継続した口腔ケアセミナーの効果と考えられた。一方口腔内評価のモニタリングや施設間連携に関しては、一人では困難という回答が多かった。この点については今後のセミナーの課題と考えられた。

考 察

今後ますます高齢化社会に進んでいく日本の社会は、認知症患者の増加、寝たきり患者の増加など多くの医療上の問題に加え、老々介護の増加、単身世帯の増加などの社会的問題が山積する。これらの問題には特効薬などはなく、地域の医療者や住民がともに考え、様々な問題に対して、個別にあるいは包括的に、そして地道に対応していくことが重要と考えている。

口腔内の問題はそれだけを捉えたと体の中のほんの一部の問題であるが、口腔内に問題があると歯だけの問題にとどまらず、舌や頬粘膜、口唇の機能が低下していきと言われている。また歯周病については糖尿病⁶⁾や循環器疾患⁷⁾に悪影響を及ぼすことも広く知られている。外科手術においても、

表4 口腔ケアセミナー終了後の追跡調査 (n=14)

	○	△	×
1. 嚥下機能・嚥下障害に関する問題点やニーズの把握			
①食事介助の状況が確認できる	7	6	1
②水分摂取時のむせが確認できる	9	4	1
③水分摂取時以外のむせが確認できる	9	4	1
④咀嚼障害の訴えを確認できる	9	3	2
2. 歯や義歯に関する問題点やニーズの把握	○	△	×
①喪失した歯の存在を確認できる	7	6	1
②取り外した義歯の有無を確認できる	11	1	2
③義歯の問題(痛み・破損)を確認できる	4	6	4
3. 口腔の状態に関する問題点やニーズの把握	○	△	×
①歯に関連した訴えを確認できる	8	4	2
②歯ぐきに関連した訴えを確認できる	7	4	3
③口腔乾燥の症状を確認できる	8	5	1
4. 口腔清掃の自立度の把握	○	△	×
①うがいの自立度を確認できる	9	3	2
②歯磨きの自立度を確認できる	9	2	3
③義歯着脱の自立度を確認できる	9	3	2
④義歯清掃の自立度を確認できる	7	5	2
5. 口腔ケア基本手技	○	△	×
①口腔ケア器具の準備ができる	8	5	1
②各口腔ケア器具の特徴を説明できる	3	8	3
③口腔ケア時の体位の確保ができる	7	6	1
④義歯を着脱することができる	10	3	1
⑤保湿剤を口腔内に塗布することができる	9	4	1
⑥スポンジブラシを用いて粘膜の清掃ができる	9	3	2
⑦舌の清掃を行うことができる	7	6	1
⑧歯ブラシを用いて歯の清掃ができる	10	3	1
⑨口腔ケアの基本手順を説明できる	6	6	2
6. モニタリング	○	△	×
①ROAGを用いた口腔ケアの数量評価ができる	2	1	11
②モニタリング帳票の運用ができる	1	1	12
③開口量の状態が評価できる	3	4	7
④歯の状態が評価できる	2	7	5
⑤口臭の状態を評価できる	6	6	2
7. 連携	○	△	×
①問題点を院内・施設内で報告することができる	6	1	7
②歯科専門職への診療依頼ができる	5	1	8
③退院・退去時の情報伝達ができる	5	2	7

口腔内に問題のある患者はない患者に比べて有意に合併症が増加するという報告もある^{5,8)}。

口腔ケアは、口腔内細菌の物理的、機械的除去に加え、唾液分泌の増加や嚥下機能を向上させるという側面も持つ。さらには意識レベルや認知機能の向上を含めて「食べる機能の向上」にも深く関与していると考えられている⁹⁾。私たち医療者が普段から口腔内の問題を意識することで、高齢者の口腔内の状態を良好に保つことができ、様々な医療上の合併症を回避できる可能性がある。そのためには、正しい知識と実技を習得することが重要である。特に地域内の医療・介護施設の医療者が、同じ目線で、同レベルの知識と技術を持つことが、極めて重要であると考えている。

口腔ケアセミナーを3年間継続したことで、群馬県吾妻地域の医療・介護従事者にとって、口腔ケアが医療や介護の基本的な手技であるという認識はある程度浸透してきたと考えている。一方実技を伴うセミナーは、その後の追跡調査を怠ると単なる自己満足に終わってしまう可能性がある。そのため第3回目のセミナーでは、医療・介護の現場に有意義な口腔ケアセミナーを提供し、その後の追跡調査を行うことでセミナーの問題点を見極め、さらに有意義なセミナーを開催するという良い循環を構築することも目標の一つとしていた。第3回のセミナー終了後の追跡調査結果を見ると、「嚥下機能・嚥下障害に関する問題点やニーズの把握」、「歯や義歯に関する問題点やニーズの把握」、「口腔の状態に関する問題点やニーズの把握」、「口腔清掃の自立度の把握」、「口腔ケア基本手技」については、概ね良好な結果であったと言える。しかしながら、「モニタリング」や「連携」については、いくつかの問題があることが判明した。今後はこれらの点を考慮し、群馬県吾妻地域の各医療・介護の現場で統一した口腔ケアが実践できるような環境を整備することの必要性を実感した。

また3年間セミナーを開催することで感じたことは、参加人数と参加職種の問題である。残念ながら、セミナーを重ねるごとに参加人数は減少してきた。特に介護福祉士や訪問介護員が減少していることに関しては、私たちは十分に注目すべきであると考えている。この原因は様々な面があると思われるが、最も大きな原因の一つはセミナーを企画する私たちであると考えている。できる限り多くの医療・介護者に口腔ケアの重要性を知っていただき、さらに口腔ケアの基本的な技術を身に付けてもらうことを念頭に置きセミナーを企画してきたが、限られた地域で、しかも同じテーマのセミナーを継続することは、参加者の関心の維持という点においては非常に難しいということを強く実感した。やはり現場の医療・介護者にとって、その時に最も重要で興味深いテーマを取り上げること、そして気軽に楽しく学ぶことができる場を提供することが、様々な職種の医療・介護者に数多く参加してもらう上で最も重要で点であると実感した。

口腔内の問題は摂食・嚥下の問題とも直結している。口腔ケアの基本的知識と技術を学ぶだけでなく、摂食・嚥下の基本的知識と技術を習得することも医療従事者にとって極めて重要である。私たちは3年間の反省と実績、および3回目のアンケート結果の要望を踏まえて、2014年

は「摂食・嚥下セミナー」を開催することとした。このセミナーは、「吾妻地区医療・介護者の摂食・嚥下障害患者への対応と他職種連携の促進」というタイトルで、群馬県在宅医療総合推進事業補助金を受けることになった。そしてこのセミナーの対象者については、医療・介護従事者だけでなく一般住民の方も含めることとした。さらに、セミナー終了後に「吾妻版・摂食・嚥下障害患者さんへのケアのポイント(仮称)」のポケットガイドの作成を予定している。

3年間継続した「口腔ケアセミナー」の経験から、私たちの活動は、摂食・嚥下の分野に広がった。今後はこの分野においても、地域の医療者がともに学び、地域で統一した対応ができるようなシステムづくりをしていく予定である。そしてこのような活動が、地域の医療・介護者が連携に良い影響を与えてくれるものと考えている。

結 論

3年間継続した「口腔ケアセミナー」から、私たち吾妻地区の医療・介護者は、口腔ケアの重要性を認識するとともに、基本的な手技もある程度習得できたと考えている。セミナーを企画する立場としては、多くの医療・介護者が興味を持って気軽に参加できるようなテーマの設定と、セミナー内容の検討が必要であると考えている。そしてこれらの地道な活動は、医療・介護者の密接な地域連携につながるものと信じている。

引用文献

- 1) 柴田由美, 隅田好美, 日山邦枝, 他: 歯科衛生士介入による病棟看護師の口腔ケアに対する認識変化. 日衛学誌 2014; 8(2): 70-83.
- 2) 横塚あゆ子, 隅田好美, 日山邦枝, 他: 病棟看護師の口腔ケアに対する認識—病棟の特性および臨床経験別の比較—. 老年歯学 2012; 27(2): 87-96.
- 3) 内田信之, 荻原 博, 金井典子, 他: NSTにおける歯科衛生士の役割—歯科のない病院での挑戦—. 静脈経腸栄養 2007; 22(3): 359-62.
- 4) 田嶋公平, 飯塚みゆき, 加嶋美由紀, 他: 当院における医科歯科連携による口腔ケアの試み. 静脈経腸栄養 2013; 28(2): 667-70.
- 5) 飯塚みゆき, 内田信之: 外科周術期の口腔ケアの重要性. DH style 2013; 7(3): 54-9.
- 6) 永田俊彦: 糖尿病と歯周病. 診断と治療 2014; 102(9): 1399-403.
- 7) 青山典生, 和泉雄一: 歯周病と循環器疾患との関わり. 日歯周誌 2014; 56(1): 12-6.
- 8) 内田信之: 消化器外科周術期における口腔内の問題と術後合併症. 日本口腔ケア学会雑誌 2013; 7(1): 65-8.
- 9) 五島朋幸: 訪問歯科診療と口腔ケア. 日医雑誌 2006; 135(8): 1757-60.
- 10) Andersson P, Hallberg IR, Renvert S: Inter-rater reliability of an oral assessment guide for elderly patients residing in a rehabilitation ward. Spec Care Dentist 2002; 22(5): 181-6.

Achievement and issue arising from 3 years continued oral care seminar

Nobuyuki Uchida¹⁾, Masaharu Tomaru²⁾, Hiroki Hirakata²⁾
Masayoshi Kanbe²⁾, Osamu Shimamura²⁾, Yasuo Kawagoe²⁾

¹⁾ Department of Surgery, Haramachi Red-Cross Hospital

698 Haramachi, Higashiagatsumamachi, Agatsumagun, Gunma, 377-0882, Japan

²⁾ Agatsuma Dental Association

858 Nakanojomachi, Nakanojomachi, Agatsumagun, Gunma, 377-0424, Japan

Purpose: In Agatsuma region of Gunma Prefecture, “Agatsuma oral care seminar” was held once a year from 2011. We will examine the achievement and issue arising from this seminar and future prospects in Agatsuma region.

Methods: Almost dentists of Agatsuma Dental Association and NST members of Haramachi Red-Cross Hospital has held “Agatsuma oral care seminar” from 2011 until 2013 every autumn. The content of these seminars was lecture and practical training.

Result: At the third seminar, the representatives of acute care hospital, convalescent hospital and chronic care hospital made a presentation on the current state of oral care in each facility. As a result, we found that oral care was the basic procedure for medical practitioners and caregivers in Agatsuma region. On the other hand, the number of participants had been gradually reduced.

Discussion and Conclusion: Through 3 years continued “oral care seminar”, many medical practitioners and caregivers in Agatsuma region recognized the importance of oral care and also mastered basic procedures of oral care. We realized that those organize seminar should always consider the setting the theme of which can participate with interest.

Key words: oral care seminar, medical regional cooperation